



いきいき茨城ゆめ国体2019

第74回国民体育大会

翔べ 羽ばたけ そして未来へ



Team Wakayama News

【第44号①:令和元年9月17日発行】

いきいき茨城ゆめ国体が開幕！！ 会期前競技(9月7日～16日) 結果速報

[本大会は9月28日総合開会式～10月8日]

令和元年9月7日(土)から16日(月)まで、第74回国民体育大会いきいき茨城ゆめ国体会期前実施競技(水泳・ビーチバレーボール・体操競技)が茨城県内で開催されました。

和歌山県選手団は、74点(参加得点50点を含む。)を獲得しました。

入賞おめでとうございます！！

- 体操競技【トランポリン】
女子 上田うらら選手(初芝橋本高等学校1年) 6位(3点)
- 水泳競技【オープンウォータースイミング】
男子 南出大伸選手(木下グループ) 1位(8点)
- 水泳競技【飛込】
成年女子 高飛込 宮田衣布紀選手(日本体育大学2年) 7位(2点)
- 水泳競技【競泳】
成年男子 400m自由形 山本耕平選手(ミズノ) 5位(4点)
成年女子 50m自由形 住岡叶夢選手(筑波大学3年) 8位(1点)
少年男子B 400m自由形 中山響選手(和歌山大学教育学部附属中学校3年) 8位(1点)
少年女子A 100m自由形 武中香奈枝選手(和歌山北高等学校3年) 4位(5点)

第74回国民体育大会(いきいき茨城ゆめ国体)

和歌山県選手団 高橋総監督 談話

会期前競技(水泳、ビーチバレーボール、体操競技)に出場された選手、監督、そして関係者の皆さん、「チーム和歌山」としてカー杯頑張っていたいただき、本当にお疲れ様でした。

水泳競技オープンウォータースイミングで男子が優勝、飛込では成年女子が入賞、競泳では全種別で入賞、体操競技トランポリンで女子が入賞、また、今後につながる活躍も多くありました。皆さんの健闘で、今月28日に開幕する本国体への弾みがつきました。



選手・監督からのコメント

○上田うらら選手(トランポリン)

初めての国体に出場させて頂き、6位入賞出来たことは本当に嬉しいです。サポートして下さった全ての方々に感謝の気持ちを忘れずに、これからも練習に励み、また来年も和歌山県代表として国体に出場出来るように頑張りたいと思います。

○田中章二監督(トランポリン)

日本代表クラスの選手達と同じ舞台上で堂々と戦えたことは本当に素晴らしいと思います。高校1年生なのでこれからまだまだ成長できると思います。

○南出大伸選手(オープンウォータースイミング)

去年は、タッチの差で準優勝だったので、今年はその悔しさを優勝という形で晴らすことができました。9月22日の日本選手権も優勝目指して頑張ります。

○吉田儀人監督(オープンウォータースイミング)

4回目の国体でしたが、去年は準優勝で本人、スタッフ共に悔しい思いをしました。今年ラストスパートで、去年の悔しさを一気に晴らした優勝でした。

○宮田衣布紀選手(飛込)

今大会で、自己ベストを大きく更新し、7位入賞することができました。和歌山国体5位入賞以来、2回目の入賞ができて嬉しく思います。今後の目標は、難度を上げて、更に上位入賞を目指したいです。

○段木雅博監督(飛込)

オリンピック代表を含むトップ選手が出場する中、高飛込では大きなミスなく自己最高得点で7位入賞を果たしました。今大会の入賞を自信にし、活躍することを期待しています。

○山本耕平選手(競泳)

東京五輪選考会にむけての重要な大会でした。和歌山国体以来の参加で、地元和歌山のために、選手としてジュニア選手への刺激になればと思い、懸命に泳ぎました。

○中山響選手(競泳)

初めての国体で緊張しましたが、和歌山県チームの応援のおかげで、モチベーションが上がりました。決勝に残れましたが、タイムが落ちてしまったので、今後は更なるベスト記録を目指して頑張ります。

○楠本一彦男子監督(競泳)

山本選手は、和歌山国体以来の参加で、5位入賞という好成績を収めてくれました。競泳にとっては、初日から決勝に残り勢いを与えてもらい、出場する選手たちに良い流れを作ってくれました。

中山選手は国体初出場でありながら、見事入賞してくれました。来年は、決勝でタイムを落とさないように更にトレーニングをし、頑張ってくれると期待しています。

○武中香奈枝選手(競泳)

今大会の目標は、2種目でナショナル標準記録を切ったの表彰台でした。100m自由形でナショナル標準記録を切れたので嬉しかったですし、支えてくれた方の為にも良い結果を残せて良かったです。来年の国体では成年女子で、頑張ります。

○住岡叶夢選手(競泳)

今シーズンは、なかなか思うような泳ぎが出来ていませんでしたが、国体では、連続して25秒台を出せました。しかし、決勝ではタイムを落としてしまったので、この悔しさをバネに、来年はリベンジします。

○山本喜一郎女子監督(競泳)

女子選手の入賞は2名でしたが、自己ベストを更新すれば入賞していた種目もあり悔しい結果になりました。今後の課題は予選から自己ベストを更新し、決勝で更に記録を縮める事です。今回の反省を活かし、鹿児島国体につなげたいです。

